ラホールにおける伝統的都市住居の構成

ラホール旧市街の都市構成に関する研究 その2

TRADITIONAL URBAN HOUSES OF LAHORE

A study on the urban quarter of the walled city of Lahore, Pakistan

山根 周*, 布野修司**, 荒 仁***, 沼田典久****, 長村英俊*****

Shu YAMANE, Shuji FUNO, Hitoshi ARA,
Norihsa NUMATA and Hidetoshi OSAMURA

The purpose of this study is to consider the principles of urban formation of the Walled City of Lahore, Pakistan. This paper discusses the spacial pattern of urban houses and their group form.

There are variety of plans of houses corresponding to the size and the form of the site. By taking notice of courtyard, they can be classified three basic types. These are (A) typical courtyard house (B) house with courtyard-like terrace on the upper floor (C) house with no courtyard space. Mansions called *haveli* are considered as a prototype of the urban house of Lahore.

Most of the site of houses are under 100m². Many entrances of houses are situated along the cul-de-sac, so the privacy of the residential space is well kept. The projected platform called *tarra* functions as semi-public space which connect the street and the house.

keywords: urban house, courtyard house, haveli, group form of houses, Lahore

都市住居、中庭式住居、ハヴェリ、集合形態、ラホール

1. 研究の目的と視点

本研究は、パキスタン、パンジャブ州の州都、ラホール Lahore旧市街の都市構成を明らかにし、その構成原理について考察することを目的とする。具体的には、旧市街内部の街区空間に着目し、その構成を、街路体系、街区構成、施設配置、住み分けのパターンおよび居住空間の構成という視点から明らかにする。

本研究は、現地の都市計画局Lahore Development Authorityより入手した、敷地割りまで描かれた縮尺1/1000¹⁾の旧市街の地図をベースマップとする、現地調査に基づいている²⁾。

本研究その1では、街路と街区の体系およびその空間構成、内部の施設配置、住み分けのパターンを明らかにした³⁾。基本的には、バザールから分岐する、クーチャkucha、ガリgali、カトラkatraと呼ばれる居住区内の路地に面した住居から一つの街区が構成される(ここではこの形態を路地街区と呼ぶ)。さらに、それらをいくつか含む形で、モハッラmohallaと呼ばれるより広い街区が形成される。街区では、モスクが総合的なコミュニティ施設として機能し、一街区に一つはモスクを建設しようという理念がある。また、街区ごとにカーストによる住み分けがおこなわれていたことも明らかになった。

本稿では、その2として、伝統的都市住居およびその集合形態に

着目し、ラホール旧市街における居住空間の構成を考察する。都市住居については、実測調査および文献から確認できた18棟の住居を対象とした(表1)。注目するのは、中庭空間の形態、特徴的な空間要素と装飾要素、およびハヴェリhaveli(邸宅)の空間構成である。集合形態の考察においては、①敷地規模およびその街区ごとの差異。②住居と街路との関係、特に通過可能街路と袋小路における住戸入口の分布の差異。③タラーと呼ばれる街路へ張り出したプラットフォームの分布、といった視点からの分析を行った。

2. ラホールの住居

2-1 住居形式

ラホールでは、複雑に入り組んだ街路に沿って、隣と壁を接して住居が建ち並んでいる。構造は煉瓦造で⁴⁾、壁厚は60~70cmと厚く、夏場には40度以上にもなる外気の熱が室内に伝わるのを防ぐ役割を果たしている。床は、各室の短辺方向に掛け渡された木材の梁の上に板を敷きつめ、その上に土を載せ煉瓦を敷いて作られる。伝統的に煉瓦の固定に用いられてきたモルタルは、チュナchunaと呼ばれ、豆をつぶしたものなどを混ぜた独特のものである。開口部には木のまぐさが使用される。また、現存する住居は、ほとんどが19世紀以降に建設されたものである。

* 滋賀県立大学人間文化学部生活文化学科 助手・工修

** 京都大学工学部建築学科 助教授・工博

*** 国際協力事業団 工修

**** 久米設計 工修

***** I.N.A.新建築研究所 工修

Research Assoc., Dept. of Life Style Studies, School of Human Cultures,
The University of Shiga Prefecture, M. Eng.
Assoc. Prof., Dept. of Architecture, Faculty of Engineering,
Kyoto University, Dr. Eng.
JICA, M. Eng.
Kume Sekkei, M. Eng.
I.N.A., M. Eng.

図1 ラホール旧市街 (①～⑮は実測調査対象住居および文献から確認できた住居の位置)

敷地の形状は不整形なものも多く、住居は敷地いっぱいに建てられるため、その平面形式は多様である。しかし、サハンスahnと呼ばれる中庭の形態に着目すると、単純に(A)：1階に中庭を設けた中庭式住居、(B)：上階に中庭テラスを持つ住居、(C)：中庭状の空間を持たない住居、という3つの基本的なタイプに分類できる。それぞれの典型例を実測事例および文献から示すと(図2)のようになる。

(A)のタイプは、

a：階数は2～3階建てである。

b：中庭に面して各室が配され、中庭から各室および上階へアプ

ローチする。

c：中庭に面した1階には、広間(ダランdalan)が設けられ、前面に柱廊が設けられる。

d：デウリdewrhiと呼ばれるエントランス空間が設けられ、入口から直接中庭が見えない。

e：中庭には原則として池や噴水など水場が設けられる。

f：中庭に面した広間の地下に、夏の避暑用の地下室が設けられる。

という特徴がある。

(B)のタイプの特徴は、

表1 各住居の概要

No.	階数	敷地面積	住居タイプ	用途	地区	建設年代
①	3	106.2㎡	C	店舗、住居	Kucha Kababian/Lohari Gate Bazaar	19c.後半
②	3	211.7㎡	A	店舗、住居	Kucha Kharrak Singh/Lohari Gate Bazaar	不明
③	3	644.4㎡	A	店舗、住居 (旧ヒンドゥー寺院)	Mohalla Kharasian/Lohari Mandi Bazaar	1876-77
④	3	29.6㎡	C	店舗、住居	Kucha Mohallay Daran/Lohari Mandi Bazaar	19c.初頭
⑤	4	154.8㎡	B	店舗、住居	Lohari Mandi Bazaar	19c.後半～20C.前半
⑥	3	180.4㎡	B	店舗、住居	Lohari Mandi Bazaar	19c.後半
⑦	3	31.0㎡	C	店舗、住居	Lohari Mandi Bazaar	19c.後半～20C.前半
⑧	4	90.4㎡	B	店舗、住居	Lohari Mandi Bazaar	不明
⑨	3	42.5㎡	C	店舗、住居	Chauk Jhanda	19c.中頃
⑩	5	156.7㎡	B	店舗、住居	Chauk Mati/Papar Mandi Bazaar	1901
⑪	4	174.2㎡	B	店舗、住居	Kucha Maan Singh/Sootar Mandi Bazaar	19c.初頭
⑫	4	62.4㎡	C	店舗、住居	Kucha Maan Singh/Sootar Mandi Bazaar	19c.中頃
⑬	3	64.2㎡	C	店舗、住居、カトラへのゲート	Katra Barkat Ali/Sootar Mandi Bazaar	19c.中頃
⑭	3	66.2㎡	C	店舗、住居	Chauk Sootar Mandi/Sootar Mandi Bazaar	19c.中頃
⑮	3	129.1㎡	B	店舗 (旧ダルマサラ[ヒンドゥーの集会施設])	Mohalla Pir Bhola/Sootar Mandi Bazaar	19c.中頃
⑯	3	419.8㎡	A	住居	Khazri Street	1851
⑰	4	117.2㎡	B	住居	Mohalla Kakazaian	不明
⑱	3	184.7㎡	C	店舗、住居	Chamberlain Road	1840年代

図2 都市住居の典型例

a : 3～4階建てが多く、中には5階建て以上のものもある。

b : 各階とも、中央のホールを諸室が囲むという共通したプランをとり、ホール部分の最上階が中庭テラスとなる。

c : 多くの場合、中庭テラスとホールは、ムグmugと呼ばれる吹き抜け(床面の開口部)で垂直に結ばれ、採光と換気ははかられる。

d : 端部に階段室が設けられる。

である。

(C) のタイプの特徴は次のようである。

a : 階数は3～4階建てが一般的である。

b : 街路に面した側と奥側に各一列ずつ部屋を配置した、二列構成のプランが多い。

c : 端部に階段室が設けられる。

また、すべての住居に共通する特徴としては、a : 屋根は陸屋根で、屋上はテラスとなること、b : バザールに面した住居では、1階が間口2～3mの店舗に分割された併用住居となっていることが挙げられる。

これら3つのタイプは、敷地の規模に関係する。大きなものから(A) > (B) > (C) となる。特に(A) の中庭式住居は、貴族や富裕層によって建てられたハヴェリhaveliと呼ばれる大規模な邸宅であることが多い⁵⁾。中庭は、水場が設けられたり樹木が植ええられるなど、潤いにあふれた空間になっている。中庭式のハヴェリを理想としながら、小さな敷地の中で居住面積を確保するため

表2 都市住居の空間的要素

イワーン iwan	半ドーム型のニッチ。モスクや他のモニュメンタルな建物の中央の入口門。三方が壁で囲われ残りの一方が直接外に開かれている列柱ホール。
グーラム・ガルディーシュ ghulam gardish	中庭を囲む柱廊。
コタ kotha	屋上テラス。屋根、あるいは屋根の架かった小さな建物。
コトリ kothry	収蔵室。倉庫。
サハン sahn	オープンな中庭。中庭状のテラス。(原義は平らな土地、床を指す。)
サルド・ハーナ sard khana	夏季の生活空間として用いられる避暑用の地下室。
ジル・ハーナ jilu khana	動物や乗り物などを降りたりつなぎ止めておくための前庭。
タハラット・ハーナ taharat khana	身体を洗い清めるための囲われたスペースあるいは部屋。
タラー tharra	店舗あるいはその他の建物の前面にのびる木製あるいは石造の壇(プラットフォーム)。
ダラン dalan	中庭に面した広間。前面が列柱となって中庭に面して開かれている。
デウリ dewrhi	建物の出入口、玄関。階段室を含むこともある。外から直接内部がうかがえないように経路を屈曲させるなどの工夫をしている。
ニシスト・ガー nishist gah	バザールを見おろす上階の商談用の部屋。
バイターク baithak	伝統的住居における主要なパブリックルーム。座敷。マルダーナ・フジュラ mardana hujra という。
バウエルチ・ハーナ bawarchi khana	台所
ハウス hauz	中庭に設けられた人工池。タンク。プール。
バルサティ barsati	屋上につくられた、雨をしのげるようにした部屋、柱廊。
ハンマム hammam	浴室。蒸し風呂。
ムグ mug	中庭状のテラスや部屋の床の中央にある開口、光井。上階の中庭や屋上へと通じる。

図3 ラホールの町なみ（デリー・ゲート・バザール）⁶⁾

図4 ジャマダール・フシャル・シンのハヴェリ⁷⁾

に、中央のホールを囲む平面型を積層させ、最上階では中庭状のテラスとし、下階のホールとムグで繋ぐという、(B)のような形式が創り出されたと考えられる。

2-2 空間的要素と装飾的要素

住居を構成する空間的要素としては、様々なものが確認できる(表2)。中庭に面して柱廊を付属させた広間であるダラン(dalan)、経路を屈曲させるなど、住居内のプライバシーを保つために工夫された入口空間であるデウリ(dewrhi)、屋上テラスに設けられる半戸外の部屋であるバルサティ(barsati)、ムグ(mug)などが特徴的である。各住居は、立地や敷地の規模、形状に応じて、これらの空間要素を組み合わせることで、多様なプランを創り出しているのである。

また、ファサードのデザインには共通の装飾的要素が見られ、住

居ごとにバリエーションを持たせながら統一感のある町なみを創り出している(図3)。特徴的な例としては、ジャロカ(jharoka (アーチやドームなどで装飾された張り出し窓)、ブハルチ(bukharchi (木製の張り出し連続バルコニー)、シャー・ナシ(shah nashin (玉座の意。屋上のパラペットと一体となったアルコブ状の椅子)、ピンジュラ(pinjura (通風のための六角形の孔が多数開けられた壁面用ブロック)、バスタ(basta (ジャロカやブハルチに用いられる、木製のすり上げ式雨戸)などが挙げられる。花卉アーチ、蓮の花をモチーフにした半ドームや楕円ドーム、ムガル様式風の付け柱など華麗なデザインを施されたものが多い。

2-3 ハヴェリ

前述のように、規模の大きな住居、邸宅はハヴェリと呼ばれ、そのほとんどは中庭式住居である。ムガル朝やその後のシク王国期の貴族によって建てられたハヴェリは特に壮麗である。現在、旧市街には、そのようなハヴェリが22棟現存している⁸⁾。

その中で、シク王国の統治者ランジート・シン(Ranjit Singh (在位1804-49)の有力な家臣であったジャマダール・フシャル・シン(Jama'dar Khush'hal Singh)のハヴェリに、中庭式ハヴェリの典型的な空間構成を見ることができる⁹⁾(図4)。

敷地面積は約7750m²、その内中庭の面積が約3000m²という広大な邸宅である。南北にやや長い長方形の中庭をはさんで、東側に入口であるデウリ、西側に広間(ダラン)が配置される。デウリの内部には、大きな壁が築かれ、入口の門から真っ直ぐ中庭に入れないように、経路が屈曲している。西側のダランは、中庭に面した広間の奥にもう一つ広間を設ける二重ダランとなっている。その地下には地下室(サルド・ハーナ)が造られる。その天井高は中庭のレベルより高く、天井近くには採光と通風をはかる窓が設けられる。中庭の南北両側にもそれぞれ二重ダランが築かれ¹⁰⁾、デウリと正面のダランを結ぶ東西の軸線と、南北のダランを結ぶ軸線が中庭中央で直交する構成をとる。

デウリの北の小さな中庭状の間は、マルダーナ・フジュラ(mardana hujraと呼ばれる男性客専用の接客空間である。中には井戸が設けられている。デウリの南側には多くの部屋が配置され、主要な居住空間となっていた。

ラホールの中庭式住居には、このハヴェリによく似た構成をとっているものが多く、広大な敷地に特徴的な空間要素を整然と配置したこのような貴族のハヴェリが、ラホールの都市住居のモデルとなっていたと考えられる。

3. 住居の集合形態

3-1 敷地規模

迷路状の街路パターンを持つラホールの市街地は、モハッラ(mohalla、クーチャ(kucha、ガリ(gali、カトラ(katraと呼ばれる街区を単位として構成されている。基本的には、バザールから分岐する路地を共有する、路地街区の形態をとる。各街区の規模は路地の長さによって決まるが、街区ごとに多様であり、本研究その1¹¹⁾で明らかにしたように一定の傾向は見られない。

住居の敷地面積を見ると、調査地区において25m²未満のものが22.4%、25m²~50m²までが38.8%、50m²~100m²が28.9%であり、平均すると52.3m²となる。9割が100m²以下であり、小規模な

図5 各街区の住居敷地面積の割合および平均

図6 住居敷地規模の分布

敷地が集合していることが分かる。

路地街区ごとに住居の平均敷地面積を見ると、街区によって差が見られる(図5)。同程度の敷地規模の街区が、一定の地域に集まる傾向があり(図6)、地域ごとの階層の違いを窺うことができる。しかし、街区規模と敷地面積との間には関連性は見られない。

住居以外の施設も含め、用途別に平均敷地面積を比較すると、明確な違いが見られる(図7)。商店およびダルガーは小さく、平均で14㎡である。バザール沿いの住居の1階部分をいくつか分割したものが一つの店舗となるが、多くが間口2~3m、奥行き6~7m

の小さな空間である。公衆トイレが次に小さく、平均22.3㎡。一方、学校は平均127.7㎡と大きい。住居とモスクは、50㎡前後で同じような平均値を示している¹²⁾。

3-2 住居入口と街路

住居入口の分布と街路との関係を、袋小路に着目してまとめたものが(表3)である。住居入口が、袋小路あるいはそれ以外の通過可能な街路に、どのように分布しているのかを見ると、全体の63.5%は袋小路に面し、袋小路により多くの住居入口が集中している。

バザールを除いた路地街区に限ると、袋小路に面する住居入口は全体の69.4%となるが、これは路地街区での街路総延長における袋小路の割合68.1%とほぼ同じ値である¹³⁾。

クーチャ、ガリ、カトラという街路種別で見ると、袋小路に面する住居入口の割合はそれぞれ73.0%、58.6%、92.7%であり、総街路長に対する袋小路長さの割合は66.8%、58.2%、88.2%であるので、それぞれ近い値で対応している。

すなわち、袋小路とそれ以外の街路では、住居入口の分布に大きな違いは見られないが、袋小路を長くすることで、外部から進入しにくい、プライバシーの保たれた居住環境を形成していることが分かる。

3-3 タラー

タラー-tarraは、店舗あるいは住居壁面から街路に、約60~70cm水平に張り出して設けられる、プラットフォーム状の壇のことである¹⁴⁾。石板を張り出してあるものが一般的であるが、まれに木の板の場合もある。1階の床レベルと同じ高さに設けられ、街路からの高さは約30~80

cmと幅がある。一部は階段となっている。タラーの下は街路の端であり、下水用の側溝が走る。

タラーの分布を見ると、住居に比べ店舗の前に設けられるものが圧倒的に多く、バザールに沿って連続して設置される(図8)。タラーの部分まで店舗が拡張しているところもある。一方、住居から張り出すタラーは、1階の床レベルまでのステップの延長として、入口付近に設けられているものが多い。間口全体に延びているものもあるが少数である。多くは各戸ごとに設置され、他の住戸とは連続しないものがほとんどである。

図7 用途別の敷地面積の割合および平均

表3 袋小路に分布する住戸人口数

No.	街区名	住戸数	近辺可住街区にある住戸人口	袋小路にある住戸人口	袋小路に口する住戸の割合
1	Kucha Kotee Daran	65	18	47	72.3%
2	Katra Nimwala	65	0	65	100.0%
3	Katra Wasi	19	11	8	42.1%
4	Kucha Ghanya	61	36	25	41.0%
5	Katra Rehman Shah	8	0	8	100.0%
6	Katra Soneawala	13	0	13	100.0%
7	Kucha Chabakswaran	-	-	-	-
8	Katra Cheetewala	12	0	12	100.0%
9	Kawelwari Gali	11	0	11	100.0%
I	Mohalla Kakazaian	535	269	266	49.7%
	Main Street(Bazar)	32	32	0	0.0%
	Kashmiri Bazar	9	9	0	0.0%
	Sirianwala Bazar	13	13	0	0.0%
	Bazar Tazabian	20	20	0	0.0%
10	Bari Gali	72	42	30	41.7%
11	Nivi Gali	14	0	14	100.0%
12	Wadi Gali	6	0	6	100.0%
13	Chaukhana Gali	26	0	26	100.0%
14	Band Gali	12	0	12	100.0%
15	Kucha Khuda Bakhshi Kotwal	22	0	22	100.0%
16	Kucha Chobdaran	23	8	15	65.2%
17	Kucha Dipti Deen Mohammad	16	16	0	0.0%
18	Kucha Pir Ramzan Shah	12	12	0	0.0%
	Other Streets	258	117	141	54.7%
19	Katra Wali Shah	33	0	33	100.0%
II	Chohatta Mufty Baqar	226	87	139	61.5%
	Main Street(Bazar)	25	25	0	0.0%
20	Kucha Shankar Nath	11	0	11	100.0%
21	Kucha Masjid Allaha Jawaya (Gali Dhoibian)	46	0	46	100.0%
22	Gali Arainya (Kucha Sheikh Yfsavan)	111	62	49	44.1%
	Other Streets	33	0	33	100.0%
23	Kucha Hussain Shah	60	21	39	65.0%
24	Gondi Gali	21	9	12	57.1%
25	Namd Gali	-	-	-	-
III	Kharadi Mohalla	108	8	100	92.6%
	Naurian Bazar	8	8	0	0.0%
26	Kucha Kharadian	75	0	75	100.0%
	Other Streets	25	0	25	100.0%
27	Kucha Kachiwan	9	0	9	100.0%
28	Gali Nanyan	-	-	-	-
29	Kucha Bhan Sarian	11	0	11	100.0%
Total		1,257	459	798	63.5%
路地街区Total (バザールを除く)		1,150	352	798	69.4%

街区の粗頭ごとの平均 (※比較対象としてBazarの値も付加してある)

街区の粗頭	平均住戸数	近辺可住街区にある平均住戸人口	袋小路にある平均住戸人口	袋小路に口する住戸の割合
Mohalla	290	121	168	58.1%
Kucha	34	9	25	73.0%
Gali	34	14	20	58.6%
Katra	25	2	23	92.7%
※Bazar	18	18	0	0.0%

図9 街路とタラー

住人の所有権がおよぶのは建物の壁面までで、街路は市当局 (municipal corporation) が管理する公共空間である (図9)。タラーは街路上に設けられているが、年間5、60ルピーという格安の使用税を払うことで、実質的には住居あるいは店舗の一部として使用することが認められている。店舗の場合、タラーは商品を陳列するのに適当な露台となる。住居の場合、住民が談話、休憩できる軒先の空間となる。出窓なども、タラー上部の空間に張り出している。タラーは街路と住居や店舗との間をつなぎ、セミパブリックな空間として位置づけられる。

3-4 下水の流れと微地形

前述のように、タラーの設けられる街路の端部には、下水を流す側溝が設置されている。(図10)は、調査地区における下水の流れを表したものである。路地街区内の袋小路の下水は、分岐元の街路へと流れ、さらにその分岐元のバザールへと流れ込んでいる。下水は街路のシステムと対応していることが分かる。最終的には旧市街内の主要なバザールへと集約され、市外へ排水される。主要なバザール、二次的なバザール、路地街区内の通過可能な街路、袋小路の順に、敷地レベルが高くなる。高低差は大きくないが、微地形における高低に従って街区が形成されていると考えることができる。

3-5 商店業種の分布

(表4) および (図11) は調査地区内の各バザールにおける商品の構成と、関連業種ごとの割合を示したものである。調査地区を東西に走るカシュミール・バザールは旧市街で最も主要なバザールの一つであるが、調査地区においては布地、既成服、靴、アクセサリなど衣料、繊維、装身具関連の商品を扱う店舗が集中して軒を連ねている。一方、このバザールから分岐する他の二次的なバザールには、食肉、野菜、小麦粉、菓子といった食料品や床屋、電気修理屋、服仕立て、クリーニングなどの日常的なサービス業を中心としながら、日用品に至るまで多様な業種が分布している。日々の生活に必要な商品やサービスは、街区にあるいは街区近辺の商店で揃うような業種配置になっていることが分かる。

4. まとめ

ラホール旧市街における、伝統的都市住居の空間構成および集住形態についてまとめると以下のようである。

①都市住居の基本的形式は、(A) 中庭式住居、(B) 上階に中庭状テラスを持つ住居、(C) 中庭状空間のない住居の3タイプである。

図8 タラーの分布

図10 下水の流れ

図11 各バザールの関連業種割合

表4 バザールの商品構成 (数字は商品を扱う店舗数)

	食料品関連												衣料品・繊維関連				装身具関連		日用品関連										サービス関連業種					その他													
	食肉	野菜	惣菜	揚げ物・スナック	果物	菓子	卵	ミルク・ヨーグルト	ジュース	チャイ	ナッツ	タバコ	食器	靴	帽子	下着	寝具	金具	時計	食器・台所用品	化粧品	文房具	カバン	カギ	真鍮	ロープ	電気製品	本	麻・おもちゃ	カセットテープ	日用雑貨	木工製品	日用雑貨	レジャー用品	床屋・美容	クリーニング	近接場・ゲームセンター	レンタルビデオ	印刷	診療所	美容院・染料	倉庫	その他				
Kashmiri Bazar		2	2	1			1	2	2	1		4	42	141	8	30	5	5	8	28	1	4	4	17	1	11	8	3	1	3	2	4	3	1	3	1			1			1	5	2	13		
Bazar Naurian	3	2	4	3	3	3	4	1	3	2	3	1	3	5				2	3																	2	2	1	1				1	15			
Bazar in Chohatta Mufty Baqar	2	1	1	1	1	1	1	1	1	4			2	1					1		1	1												2	2		1	3	1				2				
Bazar in Mohalla Kakazaian	8	3	2	3		6	2		1	1	2		2	1	2					1													1	3	5	1	5	2	1	10			3	1	1	1	6
Bazar Tazabian	3	2	5	1	3	4	4	2	3	3	2	1	3	3	3				3															3	1	2	4	3	1	2	3			1	1	7	
Sirianwala Bazar	7	2	3	1	5	1	9	1	2	4	5		5	6	2	3			1	8														3	1	7	4	1	1	3			2	1	1	8	6

②各住居は、立地や敷地の規模、形状に応じて、固有の名称を持った様々な空間要素を組み合わせることで、多様なプランが創り出される。また、ファサードのデザインには共通の装飾的要素が見られ、住居ごとにバリエーションを持たせながら統一感のある町なみを創り出している

③広大な敷地に整然とした配置構成をとる貴族のハヴェリが、都市住居のモデルとなったと考えられる。

④住居規模に関しては、敷地の9割以上が100㎡以下と小規模なものである。街区ごとに住居規模（敷地面積）には差が見られ、その分布を見ることで、地域ごとの階層の違いを窺うことができる。

⑤袋小路とそれ以外の街路では、住戸入口の分布に大きな違いは見られないが、袋小路を長くすることで、外部から進入しにくい、プライバシーの保たれた居住環境が形成されている。

⑥住居壁面から街路に張り出したタラーが、街路と住居、店舗をつなぐセミパブリックな空間として機能する。

⑦主要なバザールから二次的なバザール、路地街区内の通過可能な街路、袋小路へと分岐するにつれて敷地レベルが高くなるように、街路システムと微地形とを対応させて街区空間が構成されている。

⑧主要なバザールでは特定の業種の集中が見られる。一方それから分岐する二次的なバザールには、生活必需品を中心とした日常生活を支える多様な業種が分布する。

◇註

1) Gilmore Hankey Kirke LTD. (GHK) Architects, Engineering and Planning Consultants & Pakistan Environmental Planning and Architectural Consultants LTD.(PEPAC), "Walled City Lahore Conservation and Upgrading", 4 sheets, 1991

2) 調査期間およびメンバーは、1994年2月24日～3月19日（山根周、荒仁）、1996年10月15日～11月11日（山根周、沼田典久、長村英俊）、1997年10月7日～11月18日（山根周）。

3) 文献 (21)

4) イギリス統治 (1849～) 以前と以後では煉瓦のサイズが異なり、建物の建設年代を知る一つの指標となる。イギリスにより、煉瓦の規格は3×4.5×9インチに統一されたが、それ以前は1.5×2×4～4.5×7～8インチと一回り小さく、サイズにもばらつきがあった。

5) ハヴェリ haveli という言葉はベルシャ語に由来するといわれ、パキスタンから西インドにかけて広く用いられる。

6) 文献 (8) p. 5

7) 文献 (8) p.71, p.75

8) 文献 (6)

9) 1817年の建設とされる。現在は修復されて女子校として使われている。

10) 南側の二重ダランは、イギリス統治以後、広間を南北に二分していた列柱が取り払われ、中庭に面した列柱間は煉瓦で塞がれるなどの改変を受けた。

- 11) 文献 (21)
- 12) 施設分布に関しては、本研究その 1 [文献 (21)] を参照。
- 13) 文献 (21)
- 14) ウルドゥー語ではチャブトラ chabutra という。ヒンディー語起源でテラス、涼み台という意味。

◇主要文献

- (1) 羽田正・三浦徹編「イスラム都市研究－歴史と展望－」東京大学出版会 1991
- (2) B.S.Hakim, "Arabic-Islamic Cities", London, 1988 (佐藤次高訳『イスラム都市－アラブのまちづくりの原理』第三書館 1990)
- (3) 佐藤次高編「イスラム都市社会の形成と変容に関する比較研究」昭和 63 年度・平成元年度科学研究費補助金 (国際学術研究) 研究成果報告書、研究課題番号 63041035
- (4) S.M.Latif, "Lahore, Its History, Architectural Remains and Antiquities", Lahore, 1892
- (5) M.Baqir, "Lahore Past and Present", Lahore, 1984 (2nd ed.)
- (6) World Bank and Lahore Development Authority (L.D.A.), "Lahore Urban Development and Traffic Study", 4 vols., Lahore, 1980. そのうち旧市街に関するものは、vol.4 "Walled City Upgrading Study"
- (7) L.D.A., "Conservation Plan for the Walled City of Lahore, Library and Documentary Research", 3 vols., Lahore, n.d.
- (8) L.D.A., "The Walled City of Lahore", PEPAC, Lahore, 1993
- (9) L.D.A., "Monograph, The Walled City of Lahore", PEPAC, Lahore, 1993
- (10) M.A.Qadeer, "Lahore, Urban Development in the Third World", Lahore, 1983
- (11) M.Mushtaq, "The Pattern of Retail and Wholesale Trade in Lahore", Pakistan Geographical Review, 1968
- (12) S.Quraeshi, "Lahore The City Within", Singapore, 1988
- (13) A.M.Weiss, "Walls Within Walls", Oxford, 1992

- (14) A.Rehman and M.A.Farooq, "The Planning Heritage of Walled Cities in Punjab", Research Journal vol.2 July-December No.2, 1988
- (15) J.T.Platts, "A Dictionary of Urdu, Classical Hindi, and English", London, 1911 (Reprinted by Sang-e-Meel Publication, Lahore, 1994)
- (16) F.S.Aijazuddin, "Lahore Illustrated Views of the 19th Century", Mapin Publishing, Singapore, 1991
- (17) "The Partition of the Punjab 1947, A Compilation of Official Documents", 4 vols., Sang-e-Meel Publications, Lahore, 1993
- (18) "Gazetteer of the Lahore District 1883-84", reprinted by Sang-e-Meel Publications, Lahore, 1989
- (19) "1981 District Census Report of Lahore", Population Census Organisation Statistics Division, Govt. of Pakistan, Islamabad, 1984
- (20) R.M.Iftikhar A.Khan & G.Mohammad Safdar, "Rajputs : A Mirror of Their Origin, Castes, and Sub-Castes", Aina-e-Pakistan Publications, Karachi, 1987
- (21) 山根周、布野修司他「モハッラ、クーチャ、ガリ、カトラの空間構成ラホール旧市街の都市構成に関する研究 その 1」日本建築学会計画系論文集 第 513 号 1998 年 11 月

◇謝辞

本研究に関して、Abdul Rehman 氏 (University of Engineering and Technology, Lahore) および Imtiaz Abid 氏 (L.D.A) にはベースマップとなる地図の入手などご協力を頂いた。Javaid Ahmed 氏には旧市街での調査において、案内役兼通訳として協力していただいた。また、大阪外国語大学の山根聡氏にはウルドゥー語に関する御教示を頂いた。本研究の一部は前田記念工学振興財団の研究助成を受けている。あわせて感謝の意を表したい。

(1998 年 9 月 10 日原稿受理, 1999 年 1 月 28 日採用決定)